

保育園自己評価 令和7年度

新保育所保育指針では「保育所は保育の質の向上を図るため保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ園の保育内容等について評価を行い、その評価を公表するようつとめなければならない」ことが明記されています。当園では、これに基づき保育園としての自己評価について、項目、視点及び評価結果を下記の通り公表いたします。

評価するにあたっては下記の基準で行っています。

- A よくできている
- B ある程度できている
- C 一部検討をする
- D 見直し改善を要する

- 保育理念 子どもの生涯において極めて重要な時期であることを念頭に置き深く大きな愛情を持って養護、保育を行い子ども・保護者から信頼され、地域からも愛されることに務める。
- 保育方針 家庭的で温かみのある雰囲気を大切に、安全で清潔な安心できる保育環境のもと、子どもたち一人ひとりと丁寧に向き合い関わり、穏やかで安定した素直な心を育む。
- 保育目標 * 自尊心、自己肯定感を高め、自分も他人も大切にする心を育てる。
* 感謝と思いやりの心をそだてる。
* 基本的な生活習慣を規則正しく身につけ、自主的に行えるようにする。

◆ 保育理念・目標	評価
* 園の保育理念や目標を理解しているか	B
* 保育理念・目標及び保育所保育指針を理解し指導計画を立てているか	B
◆ 保育所としての社会的責任の理解	
* 子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重し保育を行っているか	B
* 子ども一人一人の発達段階に応じた保育を行えているか	B
* 子ども一人一人の特性を理解し園全体で共有し共通認識が持てているか	B
* 個人情報適切に扱っているか	A
* 保護者の気持ちを保護者の立場に立って考え、寄り添い、必要に応じて懇談等手立てを講じているか	B
* 保育の質の向上のため研修等に偏りなく参加できているか	B
◆ 職員としての心構え	
* 園の規則やルールを理解し守り、正確、迅速に報告・連絡・相談・確認・要請を行っているか	B

反省点・課題
① 職員間で伝達漏れがあり情報共有できていない事があった。
② 日々の保育や、特に行事に向けての準備物を期日が迫ってから慌ただしく作ることが多く、見通しを持って取り組むべきであった。
③ 各々、研修を受講していても保育現場で活かし切れていないことがあった。
④ 各々、思ったことや伝えたいことを丁寧に言語化して伝達することを苦手とする職員が想定以上に多かった。
次年度の改善点・取り組み
① 職員間での伝達を口頭だけでなく議事録等、文書化して回覧することで周知徹底していく。
② 各クラスにおいて年間の見通しが立てられるよう「見通し計画表」を作成し、月毎にもリストアップしていく。
③ 研修で学んだことは、其々学んだ先生が主体性を持ち、取り組むようにする。
④ 全職員と主任との面談を定期的に設け、職員一人ひとりの思いや考えを丁寧に聴き取り、保育現場で活かせるよう支援・配慮していく。
* より良い保育を提供できるよう、各々、日々の気付きを大切に、またそれを迅速に全体共有し保育現場に反映し活かしていく。